

令和3年度 学校評価実施報告書

京都市立楊梅幼稚園

教育目標

健康で、心豊かに、自分で考え、夢中になり、没頭して遊ぶ子どもの育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 遊びへの意欲や心を動かす姿が十分に見受けられ、いきいきと遊ぶ姿が見られた。下京雅小学校と一緒に、9年間の子どもの育ちを見取り、心が動く保育や授業を創造していくことが、9年間の育ちを見通した保育環境の充実や教師の援助につながり、子どもたちが夢中になり、没頭して遊ぶ姿につながった。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 生き生きと楽しそうに遊んでいる園児の様子から園が適切な環境を与えていていることが感じ取れる。保護者も子どもの姿を通して、成長していることと思う。 コロナ禍で様々に制限されてしまう状況だが、子どもたちには、できることがあるのではないかという、前向きな考え方で、今できることを大切に未来を主体的に生きていく力をつけていってほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月19日	学校運営協議会
最終評価	2月21日	学校運営協議会

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・子ども一人一人の命が尊いものであり、守りきる認識の下、健康に過ごし、安心した居場所の幼稚園となる。
- ・子ども一人一人がかけがいのない存在であるという認識の下、多様な能力や個性を生かし、誰一人取り残さない保育を推進する。
- ・子ども一人一人の輝きを大事にし、夢中になって遊び、没頭できる保育を充実する。
- ・子どもに寄り添い、共感し、子どもから学ぶ姿勢をもち、教職員が常に探究を深め、高め合う。
- ・子どもの実態に応じ、保育改善やカリキュラム・マネジメントを行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

○保護者アンケートの評価項目

- ・「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいますか」
- ・「子どもはいろいろなもの、こと、人の関わりやふれあいを楽しんでいますか」
- ・「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」
- ・「子どもは自分のことは自分でしようとしていますか」
- ・「教職員は話しやすく、相談しやすいですか」

中間評価

各種指標結果

○アンケート項目について、保護者も教職員も高く評価をしている。

- ・設問「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいますか」回答「あてはまる・概ねあてはまる」100%
- ・設問「子どもはいろいろなもの、こと、人の関わりやふれあいを楽しんでいますか」回答「あてはまる・概ねあてはまる」100%
- ・「子どもは友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいますか」回答「あてはまる・概ねあてはまる」99%
- ・「子どもは自分のことは自分でしようとしていますか」回答「あてはまる・概ねあてはまる」91%
- ・「教職員は話しやすく、相談しやすいですか」回答「あてはまる・概ねあてはまる」100%

自己評価

分析（成果と課題）

保護者アンケートから、概ね教育目標が達成できていると考えられる。保護者アンケートで低い評価をした方（否定的な回答をした方）とは、個別に話をしている。新型コロナウィルス感染拡大防止に伴う臨時休業中の預かり保育やその後の保育や行事の変化などについての不安によるものである。

分析を踏まえた取組の改善

今後も、一人一人に丁寧に保護者に発信し、関わっていくとともに子どもたちにとって必要な経験を工夫しながら進めていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

○保護者アンケートを実施する。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

小学校や幼稚園が楽しいということが、何よりも大切である。小学校や幼稚園から不登校や登園しにくい等の姿があるときには、大事にかかわっていってほしい。また、子どもが、家庭の中で、親にありのままの自分を表現できにくい現状を見ることがある。家庭の中でありのままの思いを出すことができるよう家庭と連携していってほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

アンケート項目について、保護者も教職員も高く評価をしている。週案、保育の実践や評価反省、事例研修から、年間指導計画に反映させている。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

小学校と同敷地内の新園舎での生活も2年目となり、子どもたちも小学校が身近な環境となり、経験がひろがっている。感染症の予防をしながらの教育活動の中、小学校との交流活動も進み、子どもたちも小学生とのかかわりを楽しみ、自信となっている。園内事例研修や小学校教員との合同の研修会などで、9年間の子どもの発達を見通して指導計画を見直したり、交流活動についても教育課程に位置づけ見直したりすることができた。さらに、週案での保育の反省や評価、次週の保育構築へと循環が行われ、週案が充実することで保育実践につながった。

保護者や教員においては「子どもは幼稚園の遊びを楽しんでいる」「子どもはいろいろなもの、こと、人の関わりやふれあいを楽しんでいる」の項目において、肯定的な評価が100パーセントと高く、子どもも保護者も安心して幼稚園生活を送っていることが伺える

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後も感染症対策を講じながらも、子どもたちも豊かな経験を保障するために、安心、安定して、安全に過ごすことができるよう、心が動く保育について引き続き環境構成の工夫をしていく。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>遊びを通した子どもたち同士のかかわりや集団での活動の体験は園や学校でしか得られない大切なものである。時代にあわせた安心・安全な学びと居場所であることを期待する。子どもが感染防止に努める姿勢から、社会性や協調性の深い子どもたちが育つと確信している。地域も協力していきたい。</p>

(2) 幼小連携・接続に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会に開かれた教育課程を実践する。 ・下京雅小学校との合同研究組織の一員となり、9年間を見通した子どもに育みたい資質能力を捉え、子どもが夢中になり、没頭する保育の展開及び公開保育や合同研修を実施する。 ・小・中学校、就園前教育施設との連携のモデル園として発信する。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>保護者アンケートの評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもはいろいろなもの、こと、人の関わりやふれあいを楽しんでいますか」
--	--

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>○保護者アンケート結果は高評価である。</p>
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>小学校との合同研究組織での研究も2年目となり、教員同士の関係ができてきことで、互いの教育についての理解が深まったり、広がったりしている。「心が動く保育・授業」という同じ視点で事例検討や研究保育、研究授業を重ね、事前研修なども合同で行うことで、幼児理解や保育の改善につながっている。</p>

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>研究発表会での小学校や就学前施設への発信をするとともに、さらに研究を深め、幼稚園と小学校の連携、接続を深める</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公開保育や研究発表会の実施 ○公開保育や研究発表会、交流保育の実施に向けた話し合いの実施

	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>行事などを通して、小学校と幼稚園の子ども同士のかかわりが様々に見られて嬉しく思う。</p>
--	---

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
小学校と一緒に研究を進める中で、互いの教育についての理解や教員同士の信頼関係が深まり、子どもたちも小学校の環境に慣れて、身近な環境になった。さらに、交流活動についても事前の打ち合わせなども含めて内容や質ともに向上した。11月の研究発表会は感染症対策のために、参観者を限定して行ったが、自園の取組を発信できた。	
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>○小学校・幼稚園での「心が動く教育の創造」について、環境・活動・働きかけの視点で、互いの研究授業、研究保育を見合い、一緒に協議することで、9年間の子どもの発達や互いの教育のよさを相互に取り入れることができ、質の向上につながった。</p> <p>○研究主任や幼小接続主任を核として小学校と一緒に組織で研究をしてきた積み重ねが、教職員全体に幼小接続の大切さが広がっている。</p> <p>○幼児教育で大事にしてきている環境に主体的にかかわり夢中になって遊ぶことこそが、小学校以降の教育の主体的・対話的・深い学びにおいても大事であることが再確認できた。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○保育をより充実させ、小学校に幼児教育を発信すること、心が動く教育を9年間で推進していく。</p> <p>○同敷地内の中規模保育ルームや、地域の未就園施設、未就学施設とのかかわりもできることからすすめていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>コロナ禍でも、幼稚園と小学校とが様々に交流できたことが、よかったです。これからも深めていく。</p>

(3) 預かり保育について

<p>具体的な取組</p> <p>安心し、楽しめる遊びや季節に応じた遊びの展開。</p>	
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>保護者アンケート評価項目</p> <p>「保護者は安心して子どもを預かり保育に参加させていますか」</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>○設問「安心して自分の子どもを預かり保育に参加させていいますか」</p> <p>回答「あてはまる・概ねあてはまる」 96%</p>	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>保育時間とは違う遊具で、ゆったりと異年齢の友達と遊ぶことができている。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>引き続き、子どもたちが楽しんですごすことができるよう、ゆったりとした雰囲気を大事に取り組む</p>

学校 関 係 者 評 価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 預かり保育参加者数や参加の感想などから検証する。
	学校関係者による意見・支援策 引き続き、安心して子どもたちが参加できるようにお願いしたい。

最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 早朝預かり保育の浸透など預かり保育が充実し、就労など、新2号認定児が増え、長時間預かり保育利用者も増えた。感染症対策を講じながら、子どもが落ち着いて遊ぶことができる環境をつくる工夫をしている。
	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 子どもたちも、預かり保育に慣れて、安心して過ごしている。 感染拡大で厳しい状況での預かり保育の実施について、学年を超えた関わりや子ども同士の接触をなるべく減らすことができる環境などを工夫していくことが課題である。
学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善 引き続き子どもたちが安心して楽しく過ごすことができるよう、預かりボランティアなどの体制を整えていく。
	学校関係者による意見・支援策 今後も充実させていってほしい。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	・PTAや地域と連携し、未就園児教育相談ポスター掲示、ホームページでの発信。 ・保護者や未就園児の様子を温かく見守り、声をかけて相談に応じたり、保護者同士をつなげたり安心感につなげる。
	(取組結果を検証する) 各種指標 ○未就園児教育相談のポスターや楊梅だよりを地域の方々に掲示をお願いしたり、児童館や未就園児教育相談などで配布したりする。 ○教育相談や入園の問い合わせの際、どのような情報により問い合わせにつながったかを確認する。
中間評価	

各種指標結果
教育相談のポスターを地域や児童館や子育てサロンに掲示することができた。楊梅幼稚園の紹介動画や教育相談について、わかりやすく紹介したカードを作成し、地域や児童館、小規模保育ルームなどで配布することができた。教育相談や入園の問い合わせの際には、園長が丁寧に対応し、一人一人にどのようなニーズがあるのか、どのような情報が問い合わせにつながったかを確認した。さらに、近隣の

小規模保育ルームと連携して本園の教育について説明する機会をもつことができた。	
自己評価	分析 (成果と課題) ホームページやポスター、口コミなどで開設を知り、登録者数が少しづつ増えている。
	分析を踏まえた取組の改善 引き続き丁寧に対応し、本園の教育や未就園児の教育相談について広く周知できるようにしていく
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ○未就園児教育相談での一人一人のかかわりを大事にする。 ○引き続き教育相談や入園の問い合わせの際、どのような情報により問い合わせにつながったかを確認したり、本園の教育や預かり保育、3年保育などについて丁寧に伝えたりする。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 地域としても協力できることはしていく。
最終評価	
自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ポスターやチラシ、ホームページなどで、広く発信した。 入園に対する問い合わせなどには、園長や教頭が丁寧に対応した
	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 本園の教育や園舎の特徴、PTAからの話や、教育相談などでの対応などで、幼稚園のことを知つてもらい、様々に興味をもっていただき、入園につながっている。転居も多く、見学などに丁寧に個別に関わることも、入園につながっている。連携施設である同敷地内の小規模保育ルームからも入園につながっている。子育てについて子どもの発達についてわからないために母親が悩んでいることが多く、教育相談で担当者が話を聞いたり、同年代の子どもたちの様子を見る機会ができたことで母親の安心感につながった。
	分析を踏まえた取組の改善 感染症対策を講じながら、年度当初から始めることができるように体制を整え、発信していく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ポスターを通年掲示するなど、協力できることはしていく

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組
・園行事や楊梅だより、ホームページでの教育内容の発信。
・地域の伝統文化（扇子の絵付け体験）に触れる機会や図書ボランティアの保育参画。
(取組結果を検証する) 各種指標
○保護者アンケートの評価項目

・「子どもはいろいろなものやこと、人と関わることを楽しんでいますか」

中間評価

各種指標結果

保護者アンケート結果は高評価である。

自己評価	分析（成果と課題） 地域の伝統扇子の絵付け体験（5歳児）を実施し、子どもたちも楽しみ、保護者も喜んでいる。園行事や楊梅だよりを地域や小学校へ配布し、幼稚園の様子を発信することができた。
	分析を踏まえた取組の改善 さらに、地域の資源を活用しながら、保育を充実させていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ○保護者アンケートを実施する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 引き続き、地域としても協力していきたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

地域の方に運動会などの行事で子どもの姿や保育を参観してもらったり、子どもが地域の交通安全教室にオンラインで参加したりなど、地域との関りをもつことができた。

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 子どもたちなりに、地域の方が自分たちの成長を喜んでくださっていることや、自分たちのことを大事に思ってくださっていることを感じることができた。
	分析を踏まえた取組の改善 今後、状況を見ながら、地域の資源を活用しながら、保育を充実させていく
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 引き続き、地域としても協力していきたい

（5）教職員の働き方改革について

重点目標

見通しをもって勤務時間内に効率的に仕事に取り組み、優先順位をつけながら業務をこなす。

具体的な取組

- ・校務支援員と連携し、業務の効率化を図るとともに保育の充実につなげる。
- ・ノー残業デーを守る。
- ・長期休業中の年休取得日を増やす。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 長時間勤務の時間数を減らす。
- 年休取得日数を増やす。

中間評価

各種指標結果

教職員は意識して、勤務時間を使って退勤しようとしている

年休取得について、それぞれが意識して、取得しようとしている

自己評価	分析 (成果と課題)
	職員朝礼を廃止し、週に一回の昼礼をおこなっている。そのため、出勤後の子どもが登園するまでに保育の準備のまとまった時間をとることができ、見通しをもって業務をすることにつながっている。校務支援員との連絡を密にすることで、自らの業務に見通しをもつことにつながっている。
	分析を踏まえた取組の改善
	見通しをもって業務にあたり、さらに校務支援員と連携し、活用を進める
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	○長時間勤務の時間数を減らす。
	○年休取得日数を増やす。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 協力できることをやっていきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

働き方改革の大事さがわかり、教職員一人一人が意識をもって取り組もうとしている。

自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	通常業務に加え、感染症対策、休園や学級閉鎖、教職員の体調不良など、難しい状況が続いたが、全教職員で連携しながら優先順位や区切りをつけることで、業務の効率化へ取り組む
	分析を踏まえた取組の改善
	業務の効率化について意識改革を進め、会議や研修などについて組織的に改善できることをさらに進めていく
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 コロナ禍で大変仕事量も増えていると思われる。協力できることをやっていきたい。